

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200150		
法人名	有限会社 在宅介護お世話宅配便		
事業所名	グループホーム お茶ばたけ		
所在地	唐津市東山801番地280		
自己評価作成日	令和元年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和元年11月22日	外部評価確定日	令和1年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>畳の生活を基本として「地べたからの介護」に取り組んでいます。椅子やベッドをなるべく使わずに、日常生活の中で自然と全身の筋力やバランス感覚の維持が出来るだけでなく、ご自身の意思で出来ることを永く保っていただくとするケアです。自分の行きたい場所には自分で自由に安全に行く事を目指しています。趣味活動の一環で「お茶ばたけ合唱団」による手話や合唱など日常活動の中で楽しみや喜びが増え、精神的安定と生活の活性化、仲間同士の関係作りへと効果を発揮しています。ホームでの生活だけでなく地域の一員として社会参加を通して、老いてもなお経験することがあり、自分の役割や社会へに貢献出来る事があるという思いを継続して行きたいと取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>国道より少し入った茶畑が広がる場所に平屋建ての「グループホームお茶ばたけ」がある。グループリビングと同時に平成13年開所、施設開所より20年近くなるが施設内は掃除が行き届き、料理の香りがする様な清潔で家庭的な施設である。「地べたからの介護」を理念とし日本の生活様式である畳の生活を基本としている。ホールには季節の飾りがされ、利用者は堀ごたつに足を下ろしゆっくり過ごしている。職員は利用者が家庭で過ごしている様に本人の思いに沿って支援している。ベッドやテーブル等をなるべく利用せず日常生活の中で地べたで生活する事で自分で行きたい場所へ行くことが出来、その生活スタイルが自然に筋力や体力を作り、食事摂取量の増加や夜間良眠に繋がっている。入居当時より介護が改善された方もいる。利用者、利用者家族に寄り添い支援されている事で信頼関係が出来、利用者家族だけではなく親戚、知人、職員もこの施設を利用したいと希望している。代表者は今も現場に出ており、利用者、職員の状態を常に考え何でも言える関係性を築き施設理念である「関わりあって育ちあおう」を実践している。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“関わり合って育ち合おう”をスローガンとした会社理念を施設内に掲示し、常に目に付くようにしている。また、毎月会社勉強会、施設勉強会を通して会社理念を輪読して共有している。	理念は開所当時に代表者が考えたものである。代表者は現在も現場に出ており今も熱い信念を持ち利用者や、利用者家族、全職員に接し「関わりあって育ちあおう」を実践している。日頃の関わりから代表者の考え方は職員に浸透している。職員勉強会での再確認や「ありがとうカード」が勉強会等で紹介され、日頃の気付きや工夫を認められる事もあり全職員のやる気に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加やグループホームの行事への参加を呼び掛けている。	地区の自治会に入会し区費を収め回覧が回ってくる。地域には戸数も少なく高齢者世帯が多くなり、清掃時は職員の参加を頼りにされている。グループホームの行事案内は運営推進会議等で行い、今年の夏祭りは雨で室内で行ったため来客は少なかったが、天気の良い年は沢山の参加がある。日常的な普段の交流は近所に民家が無く機会は少ない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域会議の中で認知症の症状、支援方法だけでなく、介護保険の説明、高齢者虐待防止、感染症の予防等資料を提供し説明を行っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を行い、事業所からの報告事項や地域からの意見について話し合いを行っている。話し合った内容については、スタッフ会議等で報告して日常のケアに生かしている。	行政、地域の代表者、利用者家族、在宅介護支援員等の参加がありホームからの報告や地域からの情報等1時間ほどの運営推進会議は出席率が高く、委員からの率直な意見や感想等活発に行われている。運営推進会議を利用者の方が周りに居る環境で開催されているとの事なので、今後は利用者にも参加して頂く様検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者等へ運営や制度に関する疑問点をその都度確認することで連携を図っている。	運営推進会議のメンバーであり普段から顔なじみの関係が出来ている。問い合わせ、相談内容によっては行政へ出向いている。職員が在宅介護支援センターに出向しており窓口としての機能もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や社内研修に置いて知識の習得に努め、身体拘束を行わない。また、施設内に身体拘束の指針を掲示し、常に目を通すようにしている。現在まで身体拘束はない。	外部研修やグループホーム勉強会、法人全体勉強会等において職員に身体拘束について内容、利用者への弊害等周知している。施設は1日中施錠しておらず利用者は自由に行動でき、職員の見守りや寄り添いで安全に過ごせる様支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修において知識の習得、道徳性の向上に努め、虐待を行わない。さらに、虐待が見過ごされないように防止に努めている。また、日々のケアの中では、常にお客様を敬う態度、言葉遣いを心がけるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ成年後見制度を受けている方はいない。職員は外部研修や社内研修において知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者ならびにご家族へ十分な説明を行い、不安や疑問などに答え、理解・納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様との日々のかかわりの中で意見や苦情を聴取できるよう努めている。収集、聴取できた意見は職員全員へ伝達・共有し、改善策を講じている。	利用者は近隣の方が多く、日頃から家族の面会が多い。職員は面会時自由に発言できる様会話を多く持ち交流を図っている。家族の思いや考え方を普段の会話から聞き取り現場の声は法人の上層部にも届けられ支援に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に意見や提案をできるような関係づくりに努めており、会議等の中において意見や提案を開くようにしている。また、就業時間以外にも機会を設け反映させている。	代表者は現在も現場に出ており日頃から全職員との交流の機会があり気軽に意見や思いを伝えることができる関係性が出来ている。賞与時は全職員と面談し仕事に限らず何でも相談できる様(家庭環境や悩み相談等)努めている。管理者は7月の異動により勤務しているが、職員との連携も出来何でも言える関係性が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、処遇に反映させるようにしている。また、給料支給時に管理者が給料明細を手渡し、相談や悩みを受ける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の会社勉強会を設け、ロールプレイ等により、職員全員の知識、技量が高まるよう取り組みを行っている。また、幹部研修会、外部研修会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会参加や施設の視察者・実習生を受け入れ、会社内の他事業所との交流の機会を持つことで、職員の研修並びにサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人及び家族との面談を数回行い、本人や家族等の想いや要望を把握するように努めている。また、あわせて当事業所についての説明を行い安心して利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人及び家族との面談を数回行い、家族等の想いや要望を把握するように努めている。また、あわせて当事業所についての説明を行い安心して利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族、担当の介護支援専門員などからの情報をもとに本人、家族を含めて関係者と話し合い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社理念に掲げている“関わりあって育ちあおう”に基づき、相互関係に努めている。掃除や洗濯物たたみ、調理・盛り付け等を一緒に行ったり、活躍等の経験談の傾聴により、作業ポイントや処理法等多くの物を学んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も介護者の一人であるという説明を行い、家族会等、会社・事業所・地域行事への参加を促し、職員とともに本人を支援していただけるように協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ定期的に便りを送付したり、希望時に電話などにより連絡をとれるように努めている。また、自宅への外出の付添も行っている。	利用者は近隣の方が多く家族、親戚、知人の面会が多い。お盆や正月に自宅へ外出又外泊し入居前の馴染みの関係が途切れない様支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を理解・把握し、一人一人が家族の一員としてお互いを支えあうような関係になるよう、さりげなく職員がサポートに入るように努めている。職員だけでなく誰かがそばにいてくれるという安心感を持っていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とするしないに関わらず、在宅支援センターや他のサービス事業所などとの連邦により随時連絡、相談が受けられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で本人の想いや言葉を傾聴し、係わりあうことで把握・実現できるように努めている。家族からも以前の生活状況等の情報収集を行い支援につなげている。	「地べたからの介護」を掲げられている通り職員は本人の意思を尊重し、本人が起きたい時に起き、寝たい時に寝る手助けを行っている。排泄の感覚も自分の意思で行動できる支援の仕方により、残存機能の維持向上が自然と出来ている。筋力や食欲等人間としての身体的基础がしっかり出来る事で薬に頼らず食欲、排泄、睡眠状態が改善出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族との面談を行い、関係者からの情報と併せて利用者についての把握を行う。また、入所後においても本人や家族との関わりや日頃のケアの中からも随時情報を取り入れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から関わりを密に行い、何気ない仕草や言動からも状態が把握できるように努めている。気付くことを心がけ、日々の記録を基に、モニタリングやカンファレンスを行い、必要に応じ介護計画の追加・変更を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は本人・家族より意見を伺い反映させるようにしている。また、職員全体により計画、モニタリングについて話し合い、作成している。	介護支援専門員は7月よりグループホームへ異動になっている。利用者の状況の把握や家族との関係性作りを気を付けながら、本人家族の意向を確認しケアプランを作成している。ケアプラン内容は全職員が確認できる様チェック表を作成、毎日チェックする事でケアプラン内容が実施出来ているか、また健康状態、排泄、食事状況等一目で確認でき日々の変化も知る事が出来る。モニタリングが容易に出来、次回ケアプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに個人記録を作成し、日々の生活状況や状態の変化を記録している。職員間での情報共有を図り、介護計画作成・見直しの際の情報として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望により、買い物や外出支援を行っている。自宅への外出支援も行っている。また、手話を交えた合唱団を作り発表する機会を設けることにより、喜びと楽しみを感じられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのデイサービスと合同での消防署の消防訓練を実施したり、レクリエーション団体のボランティア慰問、地域の保育園園児の慰問活動を取り入れ、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診や定期的な受診により体調管理を行っている。緊急時は適切な指示を受けられるように連携を取っている。	入居時施設主治医の説明を行い家族了承の上主治医変更を行っている。2週に1回主治医の往診があり、往診前日には利用者の状態を事前に報告している。緊急時や体調不良時は連絡、指示を受け、場合により主治医の往診がある。他科受診時は家族付き添いを基本とするが、家族の都合がつかない時は職員が付き添いを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会社内の看護師や受診、往診時に関わらず随時主治医、又は看護師への状況報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医との相談により状態把握に努め、事業所での生活状況や環境整備、医療連携体制等を相談したうえで早期退院を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時書面により説明を行い、状態の変化に応じて適宜家族、かかりつけ医との話し合いを行っている。職員全体で勉強会の開催により共通理解を行っている。	入居時重度化した場合の対応について本人、家族と話し合いを行い看取りについても家族の考え方を聞き取っている。看取りの時期に来てから家族の思いが変わり、自宅に連れて帰りたいと希望され対応した事がある。家族の信頼が厚く、施設で葬儀を行い職員、利用者全員で見送った事もある。他利用者家族からもここで最期を迎えたいと言われる程信頼されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に「緊急時対応」を取り入れ、訓練を行っている。マニュアル、緊急連絡網を活用出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難・消防・通報訓練、避難経路の掲示、消防設備の定期点検等を行っている。また、訓練時には必ず消防署、地域の消防団に立ち会ってもらい、助言等を頂いている。	年2回消防署、地域の消防団参加にて消防訓練、避難訓練を行っている。実際の夜間訓練は行われていないが利用者は日頃より自分で行動する意識が出来ており、施設全体がフラットな状態の為避難出来る可能性がある代表者より聞き取る。非常食や水の備蓄もある。地域の消防団に施設の見取り図、入居者の指名等も提出している。消火器の使い方も全ての職員が出来る様訓練出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、利用者への言葉遣いや個人情報の取り扱いには十分に対応している。また、個人情報保護については、書面による説明・同意を行っている。	利用者職員は家族の様な関係性を持ち、日頃より何でも話せる関係が出来ている。笑い声に溢れ家庭で過ごしている様な雰囲気を作りながらも個人個人を尊重している。入浴時、排泄時はプライバシーの保護に特に気を付けている。法人全体のお便りが発行されているが写真や名前の掲載について家族に了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、実践できるよう関わりを密にし、職員による説明や必要な支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	馴染みの生活を継続できるように、一人一人のペースに合った時間が流れるように配慮しており、随時利用者の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日に1回は必ず鏡を見るようにしており、利用者が主体となり時候に合った衣服などの身だしなみを行うことが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや好みの物等を会話の中から聞きだしたり、旬の物を献立に取り入れる。食材の買物、調理、配膳、後片付けを職員と利用者が一緒に行っている。また、職員も同じ食事を同じ食卓で一緒に食べながら見守りを行っている。	昼食は副食のみ外注されている為メニューが決まっており、ごはん・吸い物・小鉢は施設で作っている。朝食、夕食は冷蔵庫にある食材で職員が作っている。時には利用者からのリクエストによりおやつを作る事もある。何のリクエストがあっても対応出来る様食材は準備している。誕生日には職員が赤飯やケーキを作り皆でお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、食事量や水分量の把握・調整を行っている。必要な場合はかかりつけ医と相談し、量や内容の調整等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に適した口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表の記録や排泄のサインの把握により、自立排泄の支援やオムツ外しを行い、パッドの使用を最小限にし、時間毎にさりげなくトイレへ誘導するようにしている。	最後までトイレで排泄する事を目標に日中は本人が尿意や便意を感じた際這って移動しようとする行為が見られる。職員は排泄のサインを確認、声かけし動作を促す事で徐々に排泄感が戻りトイレでの排泄が可能になる。排泄の自立支援によりパッド使用料金も減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての理解は職員勉強会等を通じて出来ている。また、食事並びに水分の摂取量の把握に努め、日常生活の中で適宜の運動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴が出来るように対応している。また、利用者の生活習慣や希望に添えるように対応している。冬季など寒い時期や希望時には足浴も行っている。	毎日浴室準備がされ、利用者は毎日入浴できる環境を整えている。鼻水や少しの咳があっても発熱がない限り入浴し体を温めて臥床している。風呂は家庭にある様な1人用風呂だが時には希望によりふたりで入り温泉と一緒に来た様に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課にとらわれることなく、起床時間や就寝時間、昼寝等、出来る限り本人のペースに合わせた利用者本位の生活を送れるようにしている。夜の安眠を誘うように、日中に十分活動をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を資料化することで、随時閲覧できるようにしている。また、服薬の確認、症状の変化の確認を随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活習慣や馴染みのことを取り入れ、本人の能力に合わせた支援を行っている。また、季節ごとの行事や外出などより楽しく気分転換が出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて、散歩や戸外活動を心がけている。利用者の希望に合わせて出来る限り外出が出来るようにしている。	最近の外出は紅葉狩りや佐賀県庁展望台見学に出かけ利用者は勿論職員も初めての見学で非常に喜ばれていた。外出は利用者の健康状態に問題がない限り全員で外出する事にしている。利用者は高齢であり代表者の考えは「いつでも外出して楽しい時間を過ごす事」が全職員に浸透している為なるべく出かけて楽しい時間を過ごす様積極的に外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人の能力に合わせて管理を行っており、必要な時には随時使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に随時対応している。年賀状などは出来る限り本人に書いていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から出ると駐車場になっており、椅子を出して日光浴が出来るようになっている。前にお茶ばたけがあるのでお茶畑を見ながらお茶を楽しんでいる。	共有ホールの特徴として堀こたつがあり、利用者は足を下ろしこたつで寛いでいる。毎日ラジオ体操を行い足を下ろして座る事で自然と座位保持訓練が出来ている。横になりたい時は自分で横になり身体を休めたり自分の思いのまま過ごしている。季節毎に壁の飾りつけを行い四季が感じられる工夫をしている。資格を持った職員が足のマッサージを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の状態に合わせ、居室は畳敷きにしており思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には、使い慣れた家具や思い出の品物を飾られ、ご自分の空間を作っておられる。	布団の持ち込みや使い慣れたタンスの持ち込みがあり自分の部屋と分かっている。自分で出来る方は布団の上げ下げやパジャマへの更衣等自分でい出来る方は手伝っている。職員が毎朝居室の掃除を行い快適に過ごす事が出来る様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差を解消し、死角を出来る限り減らし、安心して能力を発揮出来るように配慮している。居室前には本人様の写真を飾るなど各自の部屋を間違わないように対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない